

富士山世界遺産登録10周年記念

令和5年度 特別展

シリーズ江戸文化のなかの富士山6 富士山の源泉

関連イベント

公開講座（定員30名・無料・要事前申込）

「幕末明治、政治・外交史のなかの“富士山”」

2024年1月21日（日）14:00～16:30

講師：（予定・変更の場合あり）

エステル・ポエール（フランス国立東洋言語文化大学教授〈オンライン〉）

田中純一朗（皇居三の丸尚蔵館研究員）

松島仁（静岡県富士山世界遺産センター教授／徳川記念財団特別研究員）

会場：静岡県富士山世界遺産センター1階研修室

※センター公式HP内の予約システムからお申し込みください。

2024（令和6）年

1/1 [月・祝] → 2/12 [月・祝]

※会期中、展示替えあり

静岡県富士山世界遺産センター2階 企画展示室

開館時間／9:00～17:00（最終入場は閉館30分前）

休室日／2024年1月16日（火・休館日）、1月17日（水）

観覧料／一般700円、70歳以上200円

大学生等以下・障がい者 無料（証明書をご提示ください）

※観覧料で常設展・シアターもご覧いただけます。

狩野董川中信筆 富士飛鶴図 静岡県富士山世界遺産センター蔵



静岡県富士山世界遺産センター



幕末明治、政治・外交史のなかの“富士山”

それからの狩野派—

将軍家御絵師から帝室技藝員、江戸城から明治官殿、そして徳川から明治へ

2018年静岡県富士山世界遺産センターは、狩野董川中信（1811～71）筆「富士飛鶴図」を収集した。金泥をとまなう極彩色で富士山、鶴、浜松の吉祥モチーフを連ねる本作は、本紙だけで縦130センチを超える巨大な掛軸であり、何らかの記念すべきイベントに際し制作された可能性が想定された。吉祥文様をあしらった金襴による裂地、宝尽くしを意匠した金蒔絵の軸先など破格の豪華さを誇る表装は、本作の特殊な成立事情をほのめかす。

なお『続通信全覧』（重要文化財・外務省蔵）及びその原本『並行御用留』（東京大学史料編纂所蔵）には、万延元年（1860）遣米使節団、文久2年（1862）遣欧使節団が米国大統領や欧州各国元首に贈った掛軸画制作の詳細が記録される。こうしたなか『続通信全覧』と本作を比較した結果、本作は遣米使節団持参の一幅、狩野董川中信筆「富士三保松原図」と絵様、法量、表装の裂地、軸先の蒔絵意匠にいたるまで完全に一致することが判明した。長らく行方知れずとされてきた日本近代史、外交史の黎明を象徴する作品が、160年余を経てここに再発見されたのである。

『続通信全覧』には、文久2年遣欧使節団がヨーロッパ6ヶ国の皇帝や国王に贈った各10幅、計60幅の掛軸に、本作にない必ず富士山図を各1図ずつ含めるよう指示した文書も掲載される。その理由は「富士山之儀は万国一般に仰望仕居候名山」とされるが、その背景には駐日英国公使ラザフォード・オールコック（1809～97）による富士登山がある。世界遺産につながる富士山の「顕著な普遍的価値」が言及されているのである。

一方、「富士飛鶴図」を制作した狩野董川中信は、江戸時代後期狩野派を代表する画家伊川院榮信の五男で幕府御絵師の浜町狩野家八代を継承した。中信は兄である狩野晴川院養信（1796～



滝和亭・狩野永應立信・野口幽谷筆 住吉富士吉野図 皇居三の丸尚蔵館蔵

1846) が主導した江戸城障壁画制作に主要メンバーとして参加するかたわら、明治2年（1869）には明治政府の洋風迎賓施設延遠館の障壁画を制作するなど、近世から近代への転換期に活躍した。

一般には徳川幕府の消滅とともに御用絵師（「御絵師」）としての狩野派の役割も終わったと評価されるが、実際には中信や弟の狩野永應立信（1814～91）、甥（晴川院養信嫡男）の狩野勝川院雅信（1823～80）など幕末期に活躍した狩野派画家は、引き続き明治期にも彩管を揮った。とりわけ永應立信は、明治官殿の杉戸絵を制作するとともに、明治22年（1888）嘉仁親王（のちの大正天皇）立太子を祝賀し宮内省侍医・武官から献上された「住吉富士吉野図」三幅対（皇居三の丸尚蔵館蔵）を明治期を代表する画家、滝和亭（1830～

1901）、野口幽谷（1827～98）と共作し、翌年には帝室技藝員にもえらばれている。狩野董川中信や永應立信、勝川院雅信は、江戸絵画と近代日本画をつなぐ橋渡し役でもあり、その象徴的な作品が近代日本の黎明期を飾った「富士飛鶴図」だったのである。

「シリーズ 江戸文化のなかの富士山」の第6回目となる本展では、富士山世界遺産登録10周年を記念し、このほど万延元年遣米使節団持参の一幅であることが明らかになった狩野董川中信筆「富士飛鶴図」にクローズアップしつつ、幕末明治の動乱期に活躍した「ポスト晴川院」世代の狩野派画家による富士山図を集成し、近代黎明期における富士山イメージの意義を再検証し、その世界遺産「藝術の源泉」としての価値を浮き彫りにする。



狩野晴川院養信筆 富士三保松原図 臨濟寺蔵

主な出品作（会期中展示替えあり）

- 狩野伊川院榮信筆 富士三保松原図 個人蔵
- 狩野晴川院養信筆 花見遊楽図屏風 京都国立博物館蔵
- 江戸城本丸等障壁画下絵 東京国立博物館蔵
- 狩野晴川院養信筆 大和名所図屏風 当センター蔵（新収蔵）
- 狩野伊川院榮信筆 竹林七賢図襖／狩野晴川院養信筆 富士三保松原図襖 臨濟寺蔵
- 狩野伊川院榮信・狩野晴川院養信筆 春景富士図 京都市立松尾小学校蔵（京都市学校歴史博物館寄託）
- 狩野董川中信筆 富士飛鶴図 当センター蔵
- 狩野永應立信・狩野勝川院雅信筆 富岳西行図 当センター蔵
- 滝和亭・狩野永應立信・野口幽谷筆 住吉富士吉野図 皇居三の丸尚蔵館蔵
- 滝和亭筆 千羽千鳥図襖／野口幽谷筆 池中鯉魚図襖 楽寿園蔵
- 狩野晏川貴信・狩野永應立信・狩野探美守貴筆 十二月花鳥図押絵貼屏風 出光美術館蔵（プライス・コレクション）

静岡県富士山世界遺産センター

【アクセス】

電車/JR身延線富士宮駅から徒歩8分
車/新東名高速道路新富士ICから約10分・東名高速道路富士ICから約15分
駐車場なし（富士宮市神田川観光駐車場(有料)をご利用下さい。)

〒418-0067 静岡県富士宮市宮町5-12
TEL 0544-21-3776
FAX 0544-23-6800
WEB <https://mtfuji-whc.jp>



撮影：平井広行

